

# パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2010年10月1日

85号



## 第一〇回国際協力青年奉仕隊活動報告

(八月二十五日～九月十日)

二十五日、成田を出発し、二十六日、パラグアイ国の首都、アスンシオンに夕方到着しました。二日がかりの旅の疲れも見せず皆、元気で、これからの体験に期待に胸をふくらませておりました。アスンシオンの南北米福地開発財団、佐野事務局長が迎えに出てくださりました。

二十七日はバスで現地に向かって出発しました。現地までは長旅であるため、途中のドイツ人が八十年以上前に開拓したチャコ地方ローマプラタで開拓の結果生まれた市の施設訪問と元市長の方から開拓の歴史が紹介されました。最初の四十年間は試行錯誤の連続で、安定して来たのが四十年を超えてからの話に開拓の厳しさを感じました。

次の朝早く、南北米福地開発協会の開拓地、レダに向かいました。二カ月の間、雨が降らず、空から乾燥した舗装されてない変化激しい道路を、砂塵を上げて、走ること七時間、レダに到着しました。

例年であれば、旅の途中で、エコツアーの如く、ツユユを始め数多くの鳥の群れを見ることが出来ましたが乾燥のため、鳥もほとんど見ることが出来ませんでした。

レダ近くなると、パラグアイ川に近くなるために、所々に水のたまる場所があるため、色々な鳥の群れの飛来を見ることが出来ました。特に南米を象徴する鳥、

トーカン(嘴が長くみかん色になっている)の群れが森を飛ぶ姿を見る事が出来圧巻でした。レダに到着、飯野先生ご

夫妻はじめ、レダで開拓している方々の暖かい歓迎を受け、青年達は長い乾燥した道、ヤシの樹の森が絶え間なく続く景色の後、砂漠の中のアシスのように現れた美しい土地に感動しておりました。その日は旅の疲れをとり、次の日、早く船で目的の地、マジヨ村、バイアネグラ市に向かいました。





『カトレセマジヨ村に着いた時、一番に村の人々と豚が出迎えてくれました。一緒に荷物を運んでくれたり、喋りかけてくれたりと最初から暖かく感動しました。そのすぐに、うんこが落ちて量にびっくりしました。子供達の中には素足の子もいて、平気で踏んでいたのには心が痛みました。』

一日目、作業を終えてお風呂となった時、泥水に近い水に入るのに抵抗があり、皆が楽しそうに入る中、私は見ていただけでした。どうしてみんな入れるんだろう？そう思っただけで一人がまだ村の人を愛してない気がしました。寝る時も、私は神経質になり、虫が落ちて来ただけでビツクリして夜中に何回も起きたりして、そのたびに村の人々はどんな生活をしているのだらうと考えました。

二日目、作業をしていて昨日は余り喋らなかった班の子ととても仲良くなりました。言葉は分からないけれど、豚の絵を描いて『チャンチョ』と教えてもらったり、日本語で教えたりと笑いながら覚えた数少ないスペイン語をならべていました。村の子たちはとても働くので勇気を貰います。愛を貰いました。一人の女の子が私の横を離れませんでした。一緒に遊んだり、先生の話を聞く時も膝に乗っています。背中によって平野さんの横を通った時、その女の子が『お母さん見たい』と言っているの聞いて納得しました。他の子と遊ぶとすねたりします。だっこしたらもう離れません。私の小さいことを思い出して愛しくなりました。

その日、私は川にはりました。村の人々がどの様な生活をしているのか体で知りたいと思ったからです。私の中ではとても決意がいました。しかし、入って見ると思っていた苦は、そこにはありませんでした。

そして、帰る日、船に乗る時、その子を探しました。見つけた時に彼女は『あなたなんかもう知らない』と言っているかのように背を向けました。私は忘れられたのかと思わずに少し悲しい思いでした。しかし、一緒に班で植樹をした子供達が涙を流して私の名前を呼んでくれました。私は愛する為にこの村に来ていたのに、私も愛されていたのかと涙が出てきて、ありがとうという気持ちと悲しい気持ちで一杯でした。バイアネグラの帰りにまたマジヨ村に寄った時、あの小さな女の子は照れていました。忘れられていなかったとホッと、近づいて抱きしめてあげたかったです。また、同じ班の子供達が泣いていました。会えた喜びなのかまた、すぐにさよならするかは分からないけど、本当に、本当に心があたたかいなあと感じました。マジヨ村が大好きになりました。』

(女性隊員)







最初の印象は生徒達みんな大人見ただなあって感じてしまった。実際、みんな一七、八歳だったので、打ち解けるのに難しい年頃で、すこし、自分は気難しく考えていました。名前を聞いてもクールに答えるので、笑いがほしいなと感じながら、ないかネタはないか必死に探していました。そんな中でとりあえず話せば何とかかなると思ひ、日本語を教えたり、スペイン語を教えるもらったり、何回も生徒の名前を呼んで親しくなろうと努力しました。植樹活動が  
生徒イエルモが  
たワールドカップ  
マ曲を流し  
れて、  
良く知っ  
いたの  
で、言  
葉を共  
有でき  
て、盛  
り上が  
りました。  
た。



全体で  
共有出来  
かがあれば  
それだけで  
の見知らなかつ  
の中で近く感じる  
だと言つことを強く感  
きつけに徐々に雰囲気良くなったように思います。二日  
目はサッカーを彼らのしました、みんなボールタッチがう  
まくて、ボールをとるのに苦労しましたし、負け試合の方が  
多かったですが、僕らの精神を見せつけ、パラグアイ対日  
本の一般市民バジョンを実現できたことは、交流におい  
て大きな良き意味があると思います。このような交流を世界  
中でどんどんやっていけるような世界を目指して、自分も頑  
張ろうと思います。バイアネグラ市にて（男性隊員）

た時、一人の  
六月にあつ  
プのデー  
てく  
僕も  
て



ミンガグアス市の活動  
『五十校に百本の植樹を！』のキャンペーンを  
市長、教育委員会とともに市庁舎にて行った。そ  
の後、市長と飯野副会長が市長舎前の庭に記念植  
樹を行い、その後、市長舎前庭に市の職員の方と  
植樹を行った。また、キャンペンに参加した学校  
を訪問し、学生と共に学校の庭に樹を植えて来た。  
校長先生に日本からのプレゼントを渡し、植樹後  
は日本の青年と学際との間で、サッカー交流をし  
ました。



## 第10回国際協力青年ボランティア隊

ブラジルの鳥の公園、世界最大の滝イグアスを楽しむ

レダにて釣りや乗馬を楽しみ、開拓の経験（ヤシの樹を伐採）



レダにおいて、魚の養殖を始めるため、生け簀を掘り、準備する中田先生（左）



**ミンガグアス市での佐野先生の挨拶**  
来賓の皆様、南北米福地財団を代表して、御挨拶できることを光栄に思います。  
我が南北米財団はRe・サン・ムン・ムーのヴィジョンにより一九九九年に創立されました。それ以降、アルトパラグアイ州にて、パンタナールの保全、及び周辺のインディオを中心とする原住民の生活向上のために3つの学校建設を初め、様々の援助プロジェクトをなしてきました。そしてまた、毎年夏休みを利用して、日本やアメリカの青年たちを招待し、現地の人達、特にインディオの人たちに対して、教育問題と環境問題を中心に奉仕するプロジェクトをなしてきました。  
（別紙に続く）

国の将来は如何なる青年たちを育てていくかということにかかっております。鉄血宰相といわれたドイツを建設したビスマルクは、その国の青年たちを見せしてくれたなら、その国の将来を予言できると言いました。

**地球家族として  
自然を守りましょう**

**南北米福地開発  
協会会員の募集**

南米、パラグアイパンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

**南北米福地開発協会 事務局**

〒二二一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二二一〇一五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp